

日本語ボランティア講座（摂南大学教授 門脇 薫氏）  
第1回「初級の入門レベル」のまとめ

1. 教師研修について

教師としての技術、知識は必要だが、教え方は1つではない。教え方のモデル通りにそのまま教えるのではなく、自分の学習者に合わせて、どのように教えるか考えて、実践して、改善していく自己教育力が言われるようになった。

色々なところでヒントを得て、これだと思ふことを取り入れていくとよい。



2. 日本語ボランティア講座

\*ボランティア団体は色々な形式で活動している。

コーディネーターによる全体対話中心型（ネタを持ってきて活動）この団体も増えてきた。

独立型（各々が1対1で教科書を使って活動）茨木市実用日本語学習会はこの型

\*地域在住の日本語を母語としない人々に言葉の壁をとり除くための日本語学習支援、および心のサポートを行う“内なる国際交流団体”で、“心をつなぐ、言葉でつなぐ”をスローガンに、共に生きる社会をめざしている。 ⇒「教える」とは書かれていない。

⇒「草の根国際カウンセラー」としての役割

（中井 2018「日本語ボランティアの基礎知識」）

何度も来なくなるような場であることが望ましい。

\*日本語教育学会（2014）参照：日本語がまだ十分でない外国人参加者（学習者とはっていない）のパートナーとして、相手が伝えようとする意図をくみ取り、自分の思いや考えを相手にわかりやすい日本語で伝える。日本語で対話することで、相手と対等な人間関係を築く。ボランティアが外国人パートナーにことばで寄り添う。

3. 最近の日本語教育の動向

\*国内 2018年11月11日読売新聞朝刊のトップ記事：日本語教師の資格を創設、背景にあるのは、外国人の人材を5年で34万人受け入れるという計画。文化庁は国内の日本語教育を推進。日本語教師の実習義務化など、資格が整備される。

\*海外 国際交流基金がやっている「日本語パートナーズ」プログラム（財務省）では海外の高校などにサポーターとして、6～9カ月位（タイは10カ月）派遣。必ずしも日本語教師の資格はいらない。2020年までに日本語母語話者を3,000人（インドネシアへは2,000人）（20～70歳）をASEAN諸国や台湾に送る。阪大でも摂南大でも学生が毎年数名行っている。公的派遣なので、公用パスポート（緑色）で行く。出発前に数週間の派遣前研修（例：インドネシア語、TTについて）がある。

注：TTとは現地の先生とのチームティーチング

\*日本語教育能力検定試験—合格率20%、一回取ったら履歴書に書ける。

4. 教える前の段階

- ・ニーズ分析 ニーズ（＝学習者が希望すること、必要だと感じていること）を知る。
- ・レディネス調査 レディネス（＝学習者が持っているもの）

⇒学習者がどのような状況かを知る。

<茨木市実用日本語学習会では、これらの情報はカルテと呼ぶシートに記入>

\*この調査の時は媒介語を使うこともある。

\*プライバシーの問題にも注意（家族のことなど聞きすぎてもいけない）

\*一気に情報を得なくてもよい。本人もニーズに気づいていないことがあるので、関係性を作っていく中で知っていく。

< レディネスチェックの質問例 >

- ・どのくらい日本語が話せるか
- ・今まで日本語を勉強したことがあるか、どこで、どんな教科書で
- ・学習の目的-日本語で何ができるようにになりたいか

「日本語教師の役割 コースデザイン」（国際交流基金）のテキストより質問例

- ・あなたの学習者は何カ国語を話すことができますか ⇒外国語学習方法を知っているかにも関係
- ・学習者には自宅で学習する時間はありますか ⇒宿題が出せるか出せないか
- ・学習者が自宅で使える機器にはどのようなものがありますか ⇒ スマホを持っているとアプリでリスニングができたり

## 5. 初級学習者に直接法で教える

\*日本語も英語も分からず、全くゼロの人は、媒介語を使わず、最もシンプルな日本語で話し、教室内にある具体的な物を色々指さしながら例として使ったりして、同じ文型を何度も提示して、言葉の意味を推測させて、理解させるようにする。（門脇先生が韓国語で実演され、実体験をした。）

\*数人のクラスでは、先生が絵カードを使って説明したり、先生が実演したことを生徒にも同じパターンで話しかけ、その生徒が正しく反応できたら、その生徒に同じ文で次の生徒に質問させていくなど、同じパターンを繰り返す中で、その言葉の機能に気づかせ、練習していく。

テンポよく話していく。（グルーブレッスンのDVDを観賞）

例1： 「はじめまして、～です。どうぞよろしく。」（自分に「さん」はつけない）

例2： A:「すみません。～さんですか。」（呼びかけのすみません）（相手には「さん」をつける）

B:「いいえ。」

A:「すみません。」（謝罪のすみません）

B:「——です。」

A:「すみません。」（聞き返しの時のすみません）

B:「——です。」

A:「あー、——さんですか。 すみません。」

カードの工夫例  = Ka / 自分には  のカード（自分には「さん」をつけない）

## 6. 直接法で教えること＝わかりやすい日本語で対話すること

フォリナートーク・ティーチャートークができるように（日本語教育経験者はできる）

日本語をコントロールして話す。習った語彙や文型を使う。

初級の場合、いかに簡単な言葉で言うかができないと通じない。

<参考：「日本語で外国人と話す技術」（くろしお出版）>

- \*短い文にする。(単文)
- \*「です、ます」体で話す。
- \*簡単な単語を使う。
- \*分かりやすい言葉で言い換える。一部媒介語を使う。  
(注：スマホの辞書に頼りすぎない。今は推測する練習だから調べないでとか言う。  
先生によっては使わないように言う人も)
- \*はっきり発音する。 \*ゆっくり話す。
- \*支援者が話しすぎない。 \*要点をしぼって明確にする。
- \*よく聞く。 \*発話を促す。⇒ 話せる雰囲気を作る。
- \*ジェスチャー、絵などをできる限り使う。

クイズ1 ①のんびり ⇒

②無料 ⇒ 危険 ⇒

③まずい ⇒

④ひま ⇒

(解答例： ゆっくり、ただ、あぶない、おいしくない、時間がある)

クイズ2 ①「都合により本日は休ませていただきます」(店の看板)

② 今日仕事をちゃっちゃと片付けてパッと遊びに行こう！

(解答例:今日は休みます。今日は仕事を早く終わらせて、遊びに行ってみよう！)

注：各自が色々考えて、返答した。答えは1つではない。

## 7. 具体的な指導法

コースデザイン (=活動のデザイン) :

学習者のニーズを知り、どのような素材・教材・教科書を使用して (あるいは使用しないで)  
どのような内容を教えるかを考える。

\*教材・教具例：時計を教えるキットもあるが、100円ショップに教具用の時計ある。

教師用のCDROMに入っているイラストをプリントアウトして使う。

レアーリア (生教材) を使う—マクドナルドのチラシ、ファミレスのメニュー等

\*教材となるテキスト・参考書・付属絵教材紹介<種類別>

・サバイバルジャパニーズ

「はじめのいっぽ」「入門日本語」「いっぽ にほんご さんぽ」(スリーネットワーク)

「英語で学ぶ日本語入門」(アスク出版)

・日本での生活、日本事情

「話そう考えよう初級日本事情」(スリーエーネットワーク)

・総合教科書

・文字：ひらがな、かたかな、漢字

「はじめてのひらがな かたかな」(音声ダウンロード) (Jリサーチ出版)

「漢字ビギナーズ」(アルク出版)

・語彙

例)「マイ単語帳」

・発音 例)アクセント記号

・その他： 学習者の言語での文法解説書、「多言語やりとり素材集」

・絵教材：みんなの日本語シリーズ 「書いて覚える練習帳」「絵教材」冊子 (CDROM)、  
パネル 「日本語の教え方スーパーキット」(アルク)



<写真左：門脇先生が紹介してくださった初級学習者向け教材の一部>

[文責：Y.O.（実用日本語学習会）]